

2025年 法経社会学科 地域社会コース・経済コース 教員業績一覧 (2025年 1 月～12月)

〔地域社会コース担当教員〕

城戸秀之

〈論文〉

「地域社会におけるデジタル・インフラの地域管理の社会的意義について——大分県臼杵市の事例をもとに——」, 鹿児島大学法文学部, 『経済学論集』, 第105号, 2025年10月。

桑原司

〈学会報告〉

①「日本における SI の過去と現在を探究する：研究課題25K05540の研究体制と視点について」シンボリック相互行為論研究会第10回例会, 2025年 9 月20日, 於：Web 開催。

<https://symbolic-interactionism-jp.blogspot.com/>

〈その他〉

②「正誤表 (2001～2003)」 *Discussion Papers In Economics and Sociology*, 2501: 1-25. (Total of 26 pages, including the cover.) <http://hdl.handle.net/10232/0002001034>

<https://gyo.tc/https://archive.md/https://warp.ndl.go.jp/web/20250811020739/ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/kuwabara/no2501dp/index.htm>

③シンボリック相互作用論「邦訳」文献リスト

<https://megalodon.jp/ref/2025-1230-1126-37/ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/kuwabara/SI-in-Japan/index.htm>

〔経済コース担当教員〕

王 鏡凱

〈論文 (単著)〉

OH Kyogai, 2025, “A Study on the Two Faces of the Utility Function : The Essential Purpose of Ordinality and the Mathematical Tools of Cardinality,” *Journal of Economics and Sociology*, No.105, pp.21-29,

Kagoshima University. [2025年10月. 非査読論文]

〈論文（共著）〉

Shunsuke SHIRAISHI and Jingkai WANG, 2025, “An Analysis of Non-Repayable Loans,” *The Joint Journal of the National Universities in Kyushu. Education and Humanities*, Vol.12, No.1. [2025年10月. 査読論文]

WAKABAYASHI Ren and WANG Jingkai, 2025, “The Expected Value of the Variance of the Sample Mean in Large Sample Theory : The Importance of the Independent and Identically Distributed Assumption,” *Journal of Economics and Sociology*, No.104, pp.1-5, Kagoshima University. [2025年 3 月. 非査読論文]

呉 博宇

〈論文（共著）〉

①TAKAKURA Kei, ANDO Ryosuke, WU Boyu, and YU Kijun, Notes on “Child Labor, Fertility, and Economic Growth”, *Journal of the doctorate studies in social sciences*, No.22, pp.89-93. (査読付)

〈報告〉

①呉博宇. 「中央銀行デジタル通貨（CBDC）の本質に関する一考察」. 2024年度地域経営研究センターシンポジウム. 2025年 3 月 1 日。

②呉博宇. 「中央銀行デジタル通貨（CBDC）についての一考察」. 日本金融学会西日本部会 2024年度第 2 回例会. 2025年 3 月 9 日。

③呉博宇. 「近年の中国大型商業銀行の国際要因」. 九大マネタリーカンファレンス2025. 2025年 3 月 9 日。

渡邊碩

〈発表論文〉

①「ヴェルナー・ゾンバルトの資本主義精神形成史論 ―「理解」的方法と論証構造」『経済学史研究』第67巻第1号. 1-24頁. 2025年 6 月. 査読有り。

②「経済思想家としてのルーヨ・ブレンターノ ―経済論と宗教論の双方に見出される共同体的人間観の一貫性」『経済論叢』第198巻. 1-18頁. 2025年 1 月. 査読有り。

〈書籍等出版物〉

①原田哲史編『経済思想史』（担当：共著，範囲：第 6 章 ドイツ歴史学派 第 2 節 盛期歴史学派 第 3 節 晩期歴史学派）法律文化社. 2025年 6 月。

〈報告〉

①「ドイツ歴史学派経済思想におけるユダヤ観の多元性 ―経済思想史の方法と対象を再検討しながら―」第39回若手研究者による経済学研究会. 2025年12月26日. 招待有り。

②‘J. H. von Thünen’s influence on the economic thought of Lujo Brentano: the Emergence of a German Historical Economist’, YSI Pre-JSHET Workshop, “Economic Thought and Philosophy”, 2025年 5 月23日。

安藤良祐

〈論文〉

- ①安藤良祐,「個人の時間選好と組織の意思決定: マルチエージェント・シミュレーションを活用した組織の意思決定分析」九州経済学会『九州経済学会年報』, 2025年12月, 査読付.
- ②安藤良祐,「制度ロジック観点での鉄道イノベーションの分析 —自動列車停止装置から自動運転への展開に関する一考察—」組織学会『AAOS Transactions』, 2025年11月, 査読付.
- ③Ryosuke Ando. A Study on Organizational Decision-making from the Perspective of Uncertainty and Ambiguity. IIAI Letters on Business and Decision Science, 2025/10, 査読付.
- ④安藤良祐, 津留崎和義,「コスト・タイムパフォーマンス観点による組織的意思決定の分析: マルチエージェントシミュレーションを利用した Active なゴミ箱モデルの開発」日本オペレーションズ・リサーチ学会『日本オペレーションズ・リサーチ学会和文論文誌』, 2025年3月, 査読付.
- ⑤安藤良祐,「組織構造が組織の意思決定にもたらす影響: 組織の意思決定シミュレーションモデル分析からの一考察」経営情報学会『全国研究発表大会要旨集』, 2025年1月, 査読付.

〈発表〉

- ①安藤良祐,「不安定な状況における組織の形式化と意思決定の不合理性: 構造方程式モデリングによる検討」九州経済学会第75回大会, 2025年12月6日.
- ②安藤良祐,「不安定な環境でのボトム層リーダーの意思決定傾向と構造的特性の影響」経営情報学会2025年全国研究発表大会, 2025年10月25日.
- ③Ryosuke Ando. A study on organizational decision-making from the perspective of uncertainty and ambiguity – A Multi-Agent Simulation model. 18th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics. July 13, 2025.
- ④安藤良祐,「組織はなぜ自滅する意思決定を行ってしまうのか」公益財団法人国際高等研究所 全国キャラバン3 QUESTIONS 九州・沖縄地区編, 2025年6月24日.
- ⑤安藤良祐,「制度ロジック観点での鉄道イノベーションの分析—自動列車停止装置から自動運転への展開に関する一考察—」組織学会 2025年度組織学会研究発表大会, 2025年6月21日.
- ⑥安藤良祐,「個人の時間選好と組織構造から分析する組織の意思決定: マルチエージェントシミュレーションによるモデル開発」日本オペレーションズリサーチ学会 2025年春季研究発表会, 2025年3月7日.
- ⑦安藤良祐,「組織の意思決定を科学する: 理論・実践から探る意思決定の本質」鹿児島県情報サービス産業協会／鹿児島大学 南九州・南西諸島域イノベーションセンター kagoshimaD³X 2024セミナー, 2025年1月21日.

〈競争的資金など〉

- ①安藤良祐,「個人の時間選好と組織的意思決定: シミュレーションと実験室実験からの検証」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C, 2025年4月 - 2028年3月